

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18560624

研究課題名（和文） アール・デコの建築の世界的な波及状況に関する研究

研究課題名（英文） A study on worldwide spreading phase of Art Deco architecture

研究代表者

吉田 鋼市（YOSHIDA KOICHI）

国立大学法人横浜国立大学・大学院工学研究院・教授

研究者番号：60111704

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学・建築史・意匠

キーワード：建築史・意匠、近代建築、アール・デコ

### 1. 研究計画の概要

アール・デコの建築は、鉄筋コンクリートという 20 世紀に普及するようになった新しい材料と、その表面を飾る幾何学的な装飾とを組み合わせた近代を代表する建築様式の一つであり、1920-30 年代の世界中に速やかに広まった。その波及力は非常に強く、いわゆるインターナショナル・スタイルに先駆けてインターナショナルになった最初のスタイルとも目されるものである。研究代表者は、これまでフランス、アメリカをはじめ東アジア、東南アジア、中南米の主だった都市におけるアール・デコ建築の普及状況をつぶさに見てきた。そして、その成果を「アール・デコの建築」（中公新書、平成 17 年）として紹介した。

しかし、南アフリカ共和国のケープタウンとヨハネスブルグにはアール・デコの豊富な実例のあることが知られており、ニュージーランドにはアール・デコの都市ともいべきネイピアがあり、北アフリカのいくつかの都市にも興味深いアール・デコ建築の存在が報告されている。これまでの蓄積に加えて、各地の実例の調査を実施し、アール・デコ建築の世界的な波及状況を把握し、グローバルなアール・デコ建築の研究を完成させたいと考えている。

本研究のもう一つのテーマは、アール・デコが各国のナショナル・アイデンティティの模索の表現手段となったということである。1920-30 年代はいわゆる両大戦間期という不安な時代を背景に、各国のナショナリズムが台頭した。アール・デコは装飾的細部を拒否しなかったから、なんらかのアイデンティティの表現媒体として使うことができ、実際、

各国で伝統的な造形が取り入れられている。中南米のアール・デコはマヤやインカの造形を取り入れているし、オーストラリアやニュージーランドのアール・デコはアボリジニの造形を取り入れている。日本の「帝冠様式」も、その一例としてとらえられることができるであろう。そうした実例を各地で探りたいと考えている。

### 2. 研究の進捗状況

平成 18 年度はオーストラリアとニュージーランドの 6 都市およびロンドンとベルリン、平成 19 年度はモロッコとチュニジア、スペイン、平成 20 年度はカナダのモントリオール、ケベック、トロント、オタワの 4 都市を、それぞれ現地調査した。

これらの諸都市には波及の強弱の程度の差はあっても、いずれもアール・デコの建築の存在が確認され、アール・デコの世界的な波及の実態が確かめられた。特に、ニュージーランドのネイピアは街全体がアール・デコの建築でつくられており、規模の大きさは別にして、米国のマイアミビーチとよく似た興味深い都市であった。また、モロッコのカサブランカの一画もアール・デコの建物が集中的に見られる。

アール・デコは各地の自然や伝統的な文化をモチーフにした造形要素を積極的に用いており、インターナショナル・スタイルの考えとは異なる地域主義的な思想を示している。インターナショナル・スタイルが一種の思想とともに受け取られたのに対して、アール・デコはイデオロギー的な側面がなく、むしろ鉄筋コンクリートというすぐれた技術

としてまず受け入れられことによるものであろう。そして、どこでも導入可能なすぐれた技術の表面に、地元アイデンティティを表現する造形が付け加えられたのであろう。鉄筋コンクリートという技術はそれを可能にしたし、施工技術の普及が世界各地でそれを可能にした。

1920-30年代はいわゆる大戦間期であり、ヨーロッパのみならず世界各国も自らのよって立つ政治的・文化的基盤の表明を要求されていた。そうした背景の上に、アール・デコは速やかに普及したのであるが、アール・デコはそうした各地の要求に応えたのである。各地で時代の背景とアール・デコの造形的細部の表現との一致を確かめ得た。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由) おおむね順調に進展しているが、平成20年度に予定していた南アフリカの調査は渡航の安全性を考慮して断念せざるを得なかった。しかし、そのかわりにカナダの4都市を調査することができ、カナダのアール・デコがアメリカ経由で採り入れられた可能性が高いという興味深い結果が得られた。これは、オーストラリアとニュージーランドでも見られた現象であり、アール・デコの世界的な波及に占める米国の大きさにあらためて気付かされた。アール・デコの世界波及は米国の経済と文化の波及と軌を一位置にしているともいえる。北アフリカのアール・デコはフランス経由であるが、その他の国ではフランス経由でないほうがむしろ多い。ヨーロッパ諸国から伝えているし、特に米国の影響が大きい。また、これまでは各地の都市の調査が主となっているが、もう少し文献的な探求も不足していると考えており、補充したい。

### 4. 今後の研究の推進方策

本来は平成20年度に調査すべきであったが、調査の安全を考慮して断念した南アフリカのヨハネスブルクとケープタウンの調査の可能性を今年度も探る。それができなければ、たとえばフランス以外のヨーロッパの都市など、他の都市の調査を実施する。同時に未見の文献や、新たに刊行されたアール・デコの文献、あるいは各地のアール・デコ・ソサイエティーの活動や報告を調べ、より広汎かつ深い視野を獲得したい。そして、これまで得られた知見をとりまとめ、報告書を作成する予定である。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

- ① 吉田鋼市、「E. コルミエとモントリオール(カナダ)のアール・デコ建築」、平成21年度日本建築学会大会学術講演梗概集、F2、2009年、投稿済、査読無
- ② 吉田鋼市、「カサブランカ(モロッコ)のアール・デコ建築」、平成20年度日本建築学会大会学術講演梗概集、F2、2008年、pp.561-562、査読無
- ③ 吉田鋼市、「ネイピア(ニュージーランド)のアール・デコ建築」、平成19年度日本建築学会大会学術講演梗概集、F2、2007年、pp.273-274、査読無

〔図書〕(計1件)

- ① 吉田鋼市、「アール・デコ——目と手の愉悦」(『アール・デコの建築』NHK出版、2008年、pp.58-65所収)